

令和4年度 庄内町振興審議会 総務分科会【議事録】

日 時：令和5年3月13日(月) 午後6時30分

場 所：役場 B棟2階 会議室2

出席者：加藤容委員（分科会長）、佐藤あゆ子委員、門松秀樹委員、加藤修一委員、阿良直美委員
（事務局）伊藤

欠席者：

1 開 会 18：30

会議の進め方、配布資料の説明。

2 協 議

（1）意見書確認と集約（別紙資料）

【委 員】本日は分科会の意見をまとめて、最終的に事務局よりまとめていただく。それぞれ事前に挙げていただいた意見を元に進めていきたい。

【事務局】参考までに過去の答申書の写しを配布しているので参考にしながらご意見等を伺いたい。

【委 員】国内外交流に関してはどうか。

【委 員】毎年思うことであるが、指標が決まっている中で、どこまで意見をすべきなのか判断に迷うときがある。もちろんすぐには反映されないにしても、外国人の方々含めマイノリティーに心を寄せた取り組みを期待したいという思いを込めて意見を述べさせていただいた。

【委 員】昨年から振興審議会の委員をする中で、分からないながらも意見を述べたところ、もちろんすべてを一気に解決できるものではないが、昨年情報発信に対して意見を挙げた際、その後、町が改善しようとしている姿が見受けられ、無駄ではなかったと感じている。思ったことは意見として挙げて良いのだと改めて感じたため、今回も様々意見を述べさせていただいた。

【委 員】もちろんすぐに取り組みやすい部分があれば、毎年伝えていても伝わり切れてない部分もあると感じており、情報発信に対しても、以前から意見として挙げてはいたが、観光協会は観光協会、響ホールは響ホールでそれぞれの情報を発信しており、お互いがシェア機能を活用して情報の共有をすべきだと感じている。

【委 員】情報のワンストップ化ができるよう連携していくべき。1つの情報を挙げるにしてもそこからHPへ飛べるようにするなど、LINEも普及しているからこそ上手く活用していくべきと考える。

【事務局】シェア機能の活用についてはすぐにできることだと思うため、そこも答申書の中に意見として組み込んでいく。また、まち・ひと・しごと分野にも共通する事項があるため、併せて内容を組み込んでいく。

【委 員】LINEの活用については、通知が多く届いて煩わしいと感じる町民の方々もいらっしゃると思うため、SNSのそれぞれの特徴を活かしながら活用していただきたい。

【委 員】国内外交流については改めてどうか。

【委 員】実際に、外国人労働者のお話を聞くと、とても労働環境が悪いことから、議員さんも外国出身の方が誕生されているからこそ、相談すれば親身になって聞いて下さるのではないと感じている。改めて答申書へ掲載すべきと考える。

【委 員】このような環境で働いている現状をしっかりと町が把握しているのか、町のどこが担当しているのかが不明である。対策を行うにしても現状把握を行うことが大事であるため、企業へ啓発していくことが重要である。

【委 員】総務分野というよりは産業分野になると思うので、産業分野もしくは、全体意見としてあげてはどうか。

【事務局】どの分野に掲載するかは係内で検討しながらも、答申書の意見として掲載させていただく。

【委 員】新エネルギーについては、町＝風車のイメージであったが、町所有の風車は撤去されてきており、この指標考え方も含め、今後どのようにして推進していくのか方向性がよく分からない。

【委 員】太陽光発電を取り入れるにしても、降雪地域において、冬季間は発電できないというデメリットもある。

【事務局】町としてもプロジェクトチームとして今後の、委員の皆さんが感じている部分も含め、新エネルギー

の在り方等様々検討している最中であるため、引き続き動向について共有して参りたい。

【委員】古紙等の資源物回収についてはどうか。

【委員】評価分析に記載されているように、今はほぼ子ども会の活動がなく、回収率が減少してしまっているのが現状である。ただ少子化については以前からの問題であるため、目的や方向性をどう定めているのか。

【委員】自身の集落についても、以前は子ども会の行事として回収していたが、現在は地区の倉庫があるのでそこに集積して、年2回収していただいている。先日立谷沢地区の振興会があり今後の方向性について協議がなされたが、まだ結論が出ていない状況である。

【委員】資源回収に力を入れるのであれば、子ども会に頼るだけでなく、リサイクルに関心を持ってもらい、古紙等の資源回収を集落行事のとしての推進も必要になってくると考える。

【事務局】町の方向性としては、補足にも記載している通り、集落の考え方による部分があるものの、少子化の問題は以前から挙げられていた部分であるため、今後の方向性については次期計画の指標の設定基準等も含め担当課と確認の上、協議して参りたい。

【委員】花苗配布についても、後継者不足が長年の課題となっている。環境美化が目的でそこから住民の交流に繋がっているとのことであったが、同様に今後の方向性を検討していく必要があると考える。

【事務局】担当課としてもなるべく管理の負担がかからないように、花の種類についても来年度検討しているようであった。

【委員】花の育成に影響されその状態を見て参加を決める団体もあるということだが、植える苗についても来年度様々検討しているということであれば、動向も見ながら状況判断し検討していただきたい。その上で、管理が大変ということであれば、花き振興会等の団体もあるので、そのような団体とも協力しながら進めていくことも大事であると考えます。

【委員】消防・防災分野についてはどうか。

【委員】消防団員の後継者不足については、毎年課題として挙げられており、来年度から立谷沢・清川地域が統合することになった。そのようにしていかないと消防団として成り立たないのが現状である。

【委員】団員数の見直し等については必要になってくるものの、消防団というのは大事な組織であることは間違いない。だからこそ加えて、自助・共助の意識がさらに大切になってくると考える。

【委員】近年は、火災件数も増えており、特に独り暮らし世帯の家事にとる死亡件数の増加を感じている。防災に繋げる意識を一人一人もつことがとても重要である。

【事務局】男女共同参画推進委員会でも女性の視点からという立場ではあるが、防災分野においても女性リーダーの育成という部分が重要になってくると考えている。来年度女性の視点から考える防災講座を開催する予定であるため、改めて意識付けをするとともに、女性も参画しやすい環境の整備や町内会における地域に根付いた女性リーダーの育成にも力を入れる必要がある。

【委員】実際に被災地では女性リーダーが自治会長として活躍しているところもある。女性の細やかさは、どの分野においても大切な観点であると思う。

【事務局】この分野を答申書へ掲載することで問題ないか。

【一同】問題ない。

【委員】交通安全・防犯についても、歩行者が見えにくい時間帯に車を運転していると、反射材も付けていないため、ドキッとするシーンが多々ある。反射材を身に付けるなどの交通事故防止啓発を進めてほしい。

【事務局】予算も絡むことであるが、現状について確認しながら担当課へ共有させていただく。

【委員】消費者対策についてはどうか。

【委員】消費者相談が必要となる人数が減少したと考えた場合、相談者数の減少は高評価につながるとも考えられる。

【委員】その意見に付随して、本当に問題を抱えている人が減少しているのか、相談をためらっているだけなのか、その現状も把握した上で、相談しやすい環境づくりの推進に努めることが適切であると考えます。

【事務局】状況も把握しつつ、次期計画では、ベンチマーク設定の有無も含め検討して参りたい。

【委員】住宅・定住促進についてはどうか。

【委員】PRについては、実際に移住した方々へのインタビュー等の動画も制作してYouTube等で公表しているので、情報発信に力を入れているのが客観的に見ても分かる。

【委員】Uターンするにしても実際に費用的負担が大きく、帰りたくても帰ってこれないという方々も多いと

思う。そういった支援も継続していただきたいし、実際にUターンで帰ってきた移住者のここが不便だったけど、これがあって助かったなどのリアルな声も発信していけたら、より現状も伝わり、魅力も伝わるのではないかと考える。進学等に伴い町外から出たとしても、いずれは戻ってきたいと思えるような郷土醸成も重要である。

【事務局】郷土醸成やUターンの文言も取り入れながら、引き続き答申書には継続して掲載する方向性で進めていく。

【委員】道路・公共交通については、年々利用者も減少しているということもあり、検討していくべき課題である。1つ提案として、町役場がターミナル的な役割を担っているのだとすれば、自宅-役場まではデマンドタクシーで運行して、役場から町営バスに乗るなどすれば、ドア to ドア型の運用ができるのではないかと考える。

【委員】高齢者の方々は、バス停に行くまでが大変であり、デマンドタクシーや町営バスを利用したくても利用できないという声も聞こえてくる。そのような運用が可能なのであれば、利用者の増にもつながるのではないかと考える。

【事務局】担当課にも意見として共有させていただくとともに、昨年と同様に答申書にも記載させていただく。

【委員】男女共同参画については、企画情報課に限らず、他の課でも男性の育児参画について事業を行って周知している部分もあるので、そこも啓発回数としてカウントしても良いと考える。

【委員】防災部分でも話題になったが、各地域においても女性の存在がとても重要になってくる。どうしても周りの風潮は、リーダーには男性というイメージがついてしまうため、改めて女性の参画を強調していきたい。

【事務局】近年、無意識の固定観念というアンコンシャス・バイアスが話題となってきている。そういった当たり前の考えを無くすために、講座についても来年度開催しようと考えているため、その部分も踏まえて答申書へ記載する。

【委員】まち・ひと・しごと創生事業としては、婚活支援等の大人向けの支援だけではなく、小中高といった若者向けにも目を向けてほしいと考えている。移住促進にも関連するが、庄内町での暮らしに希望を持ち、前向きになれる雰囲気郷土愛育成に繋がると感じるため、その視点も入れていただきたいと思う。

【事務局】承知した。移住・定住分野にその文言も追記させていただく。

【委員】過疎地域持続的発展計画については、昨年に続きふるさと納税について意見を述べさせていただいた。郷土愛醸成にも繋がると思うが、自身の子ども達は町外へ転出して庄内の食の魅力に気付いているため、改めて庄内には美味しいものがたくさんあるんだよという魅力を伝えることがとても大事であり、若者視点での特産品PRも重要だと考える。

【事務局】承知した。その部分も盛り込まさせていただく。では、答申書に掲載する項目の選定に入る。今まで出された意見をまとめると、総合計画後期基本計画については、全体意見として(1)国内外交流における「国際理解・交流活動の推進」総務分野としては(1)防災意識の強化(2)男女共同参画における女性の参画(3)情報発信の強化(4)町営バス・デマンドタクシーの見直し及び検討(5)住宅・定住促進という5つの項目について盛り込む。まち・ひと・しごと創生総合戦略については総務分野と同様に(1)情報発信の強化、過疎地域持続的発展計画については(1)ふるさと納税のPR促進についてとする。これらの項目について素案作成を事務局にお願いすることでよいか。

【委員】異議なし。

【委員】では、意見を集約した素案を作成いただき、内容を確認したうえで次回全体会に提出する。

3 その他

4 閉会 20:40